

第1回 櫛田川流域委員会 議事要旨(案)

中部地方整備局では、「櫛田川水系河川整備計画(大臣管理区間)」を策定するにあたり、櫛田川流域委員会発足会の提言を受けて学識経験者等から幅広くご意見を頂くため第1回櫛田川流域委員会を開催した。

第1回の流域委員会では、現地視察、流域委員会の設立趣旨と規約、流域委員会の進め方について審議を行うとともに、各委員から櫛田川に対する意見・思いを述べて頂いた。

第1回委員会での審議事項と主な議事概要は以下のとおりである。

【開催日時等】

日時：平成15年3月18日(火) 9:20～17:00

9:20～15:00 現地視察(河口～蓮ダム)

15:10～17:00 会議(松阪フレックスホテル 平安の間)

【出席者】：岩男安展委員、植田隆委員(代理：杉山土木課長補佐)、大谷幾津子委員、木本凱夫委員、竹川博子委員、田所照朗委員、谷本勢津雄委員、中西智子委員(現地視察のみ)、長谷川順一委員(代理：谷村土木建設課主幹兼管理係長)、原田増造委員、松尾直規委員、宮本里美委員(代理：妹尾建設課長補佐)、山本亮二委員、渡邊悌爾委員(関口秀夫委員、武田明正委員、渡辺寛委員は欠席)(50音順)

【審議事項】

櫛田川流域委員会の設立について

) 櫛田川流域委員会発足会からの提言について

) 櫛田川流域委員会の設立趣旨と規約について

委員長選出

櫛田川流域委員会の公開について

櫛田川流域委員会の進め方について

櫛田川への意見・思いについて

今後のスケジュールについて

【議事要旨】

1. 櫛田川流域委員会の設立について(資料-3)

「設立趣旨」「委員会規約(案)」は原案どおり了承され、平成15年3月18日付けで施行された。

2. 委員長選出

委員の互選により、委員長には渡邊悌爾委員が選出された。また、副委員長は委員長の指名によって、松尾直規委員が選出された。

3. 櫛田川流域委員会の公開方針について（資料 - 4）

流域委員会の公開方法について了承された。主な了承事項は以下のとおり。

会議の公開

- ・会議は原則として公開とする。
- ・審議の円滑な進行のため、カメラ、ビデオの撮影は、冒頭の委員長の挨拶までとする。
- ・会議の一般の傍聴は自由とする。ただし、会議の審議中に一般傍聴者の発言は取り扱わないものとし、会議の内容に関する質問については、会議後、事務局において対応する。
- ・会議の開催案内は、事務所ホームページの掲載や記者クラブへの情報提供等により行う。

会議資料の公開、報道機関への取材の対応

- ・議事の記録については議事要旨としてとりまとめる。
- ・会議資料や議事要旨は、原則として事務局より公表し、閲覧できるようにする。ただし、個人のプライバシー、団体の利害に関する資料、重要な貴少種の位置情報に関する資料等については非公開とする。
- ・記者会見は、会議を公開とすることから原則として行わない。ただし、委員長が必要と認める場合は、委員長による記者会見を行う。

4. 櫛田川流域委員会の進め方について（資料 - 5）

今後の流域委員会の進め方としては、まず事務局から整備計画原案の骨子を提示し流域委員会で審議するものとし、その後は委員会と事務局がキャッチボールしながら審議を進めることとする。

5. 櫛田川への意見・思いについて

各委員から、現地視察を踏まえ、櫛田川の川づくりに対する意見や櫛田川に対する思いを発言して頂いた。各委員の意見は次のとおりである。

（治水）

- ・行政の立場から言うと、安全性を確保するのが第一である。なるべく早く安全な堤防ができれば良い。

- ・（松阪市の）庄から両郡にかけて堤防がないため、洪水のときに気になる。堤防を整備する必要がある。
- ・洪水に対する対策は、早急に整備が必要である。ただし、自然環境への配慮は行っていく必要がある。
- ・人間の生命と財産を守ることは一番重要である。その中でも、生物が生息しにくいことがないように、多自然型工法でやって欲しい。
- ・（松阪市の）両郡下流では、20年前と河床が大きく変わっていない。工事により河床をいじると川によってはなかなか復元しないことがあるため、必要でないところを極力手を付けないことが大切である。
- ・「川づくり」ということばはひっかかるものがある。国土交通省は道路だけではなく川をつくるのか？ 環境に優しい川づくりというと、少し恥ずかしい気がする。
- ・櫛田川は治水上の課題ははっきりしている。洪水に対しては着実に実施すればよい。
- ・災害に対する備えが必要である。特に、台風の時に地震があったらどうするか。
- ・ダムの地震に対する強度が気になった。

（自然環境）

- ・櫛田川は河畔林と河道内樹木が多いのが特徴である。
- ・水生生物や植物の生息を考え、夏の湧水や低水時の流量を考えていく必要がある。櫛田川にはネコギギやアカザ、カマキリといった重要な魚類が生息している。
- ・魚類の種類も昔と変わってきており、ブラックバス及びブルーギルが入っている。
- ・30年前から比較すると、鳥の数が1/10にまで減っている。干潟が死んでおり、また、各地で干潟が減少していることも原因と考えられる。
- ・櫛田川は山紫水明の地であり、水が命を育んでいる。美しいということが大事である。
- ・蓮ダム建設の現場見学で初めて櫛田川を見た。すばらしい川というのが第一印象である。
- ・櫛田川は風景、歴史等に係わる景観に優れている。自然と協調できる川づくりをしていくことが必要である。
- ・人の生活も大事であるが、他の生物の生活も大事。どちらも命は同じであるため、うまくまとめて行ければ良い。
- ・すばらしい自然をいかに持続していくかが課題である。自然共生型の川づくりといわれているが、櫛田川でできなければどこの川でもできない、それくらいの意気込が必要である。

(利水)

- ・ 湯水問題に対しても、治水、利水の絡みもあるが、良い管理の仕方、湯水のコントロールの仕方をこの委員会で議論していく。
- ・ 20～30年後はどうかかわからないが、20～30年後にどうしたいかということが議論できる。農業問題でも、米を輸入するのであれば田はいらなくなるし、自給率を上げるのであれば水が必要となる。流域のあり方が川の問題に関わってくる。

(水量・水質)

- ・ 水質、水量を年間通して維持するための河川全体のマネジメントが重要。その中で、多自然形工法等の自然の力を活かす工法を取り入れていく。
- ・ 水質が悪化している。生活排水等により水が汚れて、子供たちが川で泳がない。
- ・ 家庭からの排水が水質を悪化させている。また、川原の汚さが目立つ。美しい川を守るためには、琵琶湖での合成洗剤の禁止など家庭から取り組んでいくことが必要である。蓮ダムの淡水赤潮対策も聞いた。四万十川にも勝る美しさを保ちたい。

(川づくり)

- ・ 市町村合併の視点から、下流から上流までの行政単位になるため、身近な問題として考えていく必要がある。
- ・ 地域の人が川をどのように考えているか。地域にもっととけ込んで、専門的な知識を持っている人やネットワークを築いて行くことが必要である。
- ・ 子供たちが自然環境に触れる場が少ない。整備計画の中で取り組んで欲しい。
- ・ (松阪市の)中万や佐奈川の桜づつみ、神山神社、櫛田橋下流での水防活動、(松阪市の)松名瀬では干潟があり、有効な利用ができる。今の形態を残しながら利用を進めていければ良い。
- ・ 子供たちに川と地域の関わりを学ぶことが重要である。子供たちに対して何をしていくか。ボランティア、学校での活動に対してどのようにサポートしていけばよいかを考えていく必要がある。
- ・ 松阪青年会議所主催で、年1回、高校生を集めて「ヤングエイジ」(スピーチ大会)を開催している。今年は、「私の住む町」というタイトルで行ったが、全ての人に優しくなければいけないという意見が出た。川づくりも同じ思いがする。
- ・ 総合行政ということで、地域の住民や子供たちがうまく活躍できるような場を整備していくことが重要である。
- ・ 従来はハード整備が中心であったが、地域の住民がどうか関わるか、また地域住民が関わりやすいハード整備を進めていくことが重要な観点である。
- ・ 目標を具体的に設定することが重要。ベンチマークとして具体的な数値目標を設定することで、地域住民が努力目標として取り組んでいくことができるし、住民も共に努力する。そしてここまで成果が上がったというように、地域の励みにもなる。

外部に対しても良いアピールとなる。

- ・従来の単なる管理型から、住民が主体となった川づくりを行うことでレベルを上げていきたい。

以上の意見を踏まえて次のとおり質疑応答が行われた。

質疑・応答

- ・現地視察では、水の多いときの櫛田川であったが、もっと水のないときに見て欲しい。渇水時は堰から水が落ちない。そういう中で取水を認めている。今の堰は制限を設けている。櫛田川の堰堤は制限がないため、渇水時には堰から水が落ちない状況である。渇水時でも最低、水が流れるように今後考えて許可して欲しい。

事務局：今後、整備計画の中でどのようにしていくのか考えていきたい。関係者も多いことから、現実的には県などの協力を得て案をみなさんに提示し、みなさんの力を結集したい。水量水質は、全体としてどのように管理していくか、また自然のシステムをどう維持していくか、課題は多いが櫛田川ではこのようにやっていこうということを出して議論できるようにしたい。

- ・山を見ると人工林が多いが、整備されておらず林床が荒れている。このため、保水力が落ちており、渇水時の水量の少なさにつながっている。林野庁も含めた川づくり、山づくり、自然づくりを進めていくのが課題である。横のつながりを広げて欲しい。
- ・水質と水量という観点から、櫛田川を見直す必要がある。現実がどうなっているかをしっかりとおさえる必要がある。

- ・ダムの堆砂状況は。また、たまった場合どうするのか。

事務局：蓮ダムの堆砂状況は、完成から11年経過したが、現在堆砂量は0に近い。蓮ダム流入地点に貯砂ダムがあり、粗い土砂の流入を防いでいる。貯砂ダムにたまった土砂は骨材資源として再利用している。

蓮ダムでは100年分の土砂が流入しても大丈夫なように、堆砂容量を見込んでいる。

- ・堆砂は全国的に課題になっている。下流の河床や生物に影響を与えるため、水だけでなく土砂管理も課題である。

6. 今後のスケジュールについて

- ・第2回委員会は平成15年6月頃を開催する。
- ・具体的な日程等については、後日調整を行い決定する。
- ・第2回委員会は、櫛田川の特徴と課題について審議する予定である。